

特典付定期積金(ベスト積金・インターネット専用)規定

1. 定義

特典付定期積金(ベスト積金・インターネット専用)規定

(1) 特典付定期積金(インターネット専用)(以下「この積金」といいます。)は、当行所定のインターネットバンキングにおける普通預金からの振替にもとづき、作成された積金をいいます。

(2) インターネットバンキングで作成されたこの積金に関しては、通帳、証書等は発行いたしません。なお、有通帳に変更することはできません。

2. 掛金の払込み

この積金はインターネットバンキングによって定期積金を契約された日と同日に掛金を払込み下さい。

3. 証券類の受け入れ

小切手その他の証券類の受け入れはお取扱いできません。インターネットバンキングによる普通預金口座からの振替のみお取扱いが可能です。

4. 給付契約金の支払時期等

- (1) この積金は満期日以降に給付契約金を支払います。満期日の前に解約はできません。
- (2) 給付契約金の取扱に関し、満期日に自動解約し、自動継続扱いの定期預金に振替える定期預金振替型と満期日に自動解約し、元本及び税引後利息をあらかじめ指定したご本人さまの普通預金または当座預金(同一店舗のみ)に振替えることができる自動解約型を初回契約時に選択していただきます。
- (3) この積金は、満期日に自動解約し、全額まとめて振替口座に自動入金する非継続方式と満期日に自動解約するとともに初回契約時の契約内容(契約期間、毎回掛金等)と同様の新規口座を自動作成する自動継続方式を初回契約時に選択していただきます。

5. 払込みの遅延

掛金の払い込みが遅延したときは、満期日の繰り延べはなく、約定利率による遅延利息をいただきます。

6. 給付補填金等の計算

- (1) この積金の給付補填金は給付契約金と掛金総額の差額により計算します。
- (2) 約定どおり払込みが行われなかったときは、つぎにより利息相当額を計算します。
 - ① 約定利率の割合による約定日を過ぎた日数分の利息を給付補てん金より差引くものといたします。
 - ② 当行がやむを得ないものと認めて満期日前の解約をするときは、預入日から解約日の前日までの日数および次の預入期間に応じた期日前解約利率によって計算します。

期前解約利率

| 期日前解約までの 預入期間 | 当初の預入期間 | | | |
|------------------|---------------|--------------|--------------|--------------|
| | 1年以内 | 2年 | 3年 | 5年 |
| 6ヶ月未満 | 解約日における普通預金利率 | | | |
| 6ヶ月～1年未満 | 約定利率 ×50% | 約定利率 ×50% | 約定利率 ×40% | 約定利率 ×10% |
| 1年～2年未満 | | 約定利率 ×70% | 約定利率 ×50% | 約定利率 ×30% |
| 2年～3年未満 | | | 約定利率 ×70% | 約定利率 ×40% |
| 3年～4年未満 | | | | 約定利率 ×50% |
| 4年～5年未満 | | | | 約定利率 ×70% |

※期日前解約利率が解約時に普通預金利率を下回る場合、解約時の普通預金利率を適用します。

※満期時までの掛金払込回数が、契約期間に応じた払込回数(例:預入期間が1年であれば、12回になります)に満たない場合は、期日前解約扱いとなり、満期時に期日前解約利率が適用されます(当初契約預入期間に該当する掛金についても、期日前解約利率が適用されます)。

③ この計算の単位は1円とします。

7. 先払い割引金の計算等

この積金の掛金が払込み日前に払込まれた場合、先払い分に応じて満期日の繰上げは行いません。また、先払い割引金もありません。ただし、遅延日数がある場合には、先払い日数を引いた日数で遅延利息を計算します。

8. 満期日以後の利息

- (1) 満期日後に解約する場合、給付契約金(掛金総額に達しないときは掛金残高)に満期日から解約日の前日までの期間について、解約日における普通預金金利によって計算した利息を支払います。
- (2) 払込みに遅延があった場合、給付契約金は遅延利息を引いた金額となります。

9. 特典

この積金の約定に係る特典内容については、別途商品概要説明書に定める。

10. 解約

- (1) この積金を解約するときは、お客さまご自身でインターネットバンキングにてお手続き下さい。
- (2) 窓口にて解約をするときは、当行所定の書類に届出の印章(または署名)により押印(または署名)して出金登録口座の円普通預金通帳とSBJダイレクトカードとともに取扱店に提出してください。なお、窓口にて署名の照合を行う場合は、PIN-PADに暗証番号の入力を行ってください。
- (3) 前項の払戻しの手続きに加え、当該積金の払戻しを受けることについて正当な権限を有することを確認するための本人確認書類の提示等の手続きを求めることがあります。この場合、当行が必要と認めるときはこの確認ができるまで払戻しを行いません。
- (4) 次の各号の一にでも該当した場合には、当行はこの積金取引を停止し、または預金者に通知することによりこの積金口座を解約することができるものとします。なお、通知により解約する場合、到達のいかんにかかわらず、当行が解約の通知を届出のあった氏名、住所にあてて発信した時に解約されたものとします。
 - ① この積金口座の名義人が存在しないことが明らかになった場合または積金口座の名義人の意思によらずに開設されたことが明らかになった場合
 - ② この積金の積金者が第13条第1項に違反した場合
 - ③ この積金が法令や公序良俗に反する行為に利用され、またはそのおそれがあると認められる場合

- ④ 積金者が印鑑届等に記載した事項に虚偽の申告をしたことが判明した場合
- ⑤ 当行が法令で定める本人確認等の確認を行うにあたって、積金者について確認した事項に関し、虚偽が明らかになった場合
- (5) 前項のほか、次の各号の一にでも該当した場合には、当行はこの積金口座を解約することができるものとします。
 - ① 積金者が、次のいずれかに該当すると認められた場合
 - A. 暴力団 B. 暴力団員 C. 暴力団準構成員 D. 暴力団関係団体
 - E. 総会屋等、社会運動等標榜ゴロ又は特殊知能暴力集団等
 - F. その他前各号に準ずる者
 - ② 積金者が、自ら又は第三者を利用して次の各号に該当する行為を行った場合
 - A. 暴力的な要求行為 B. 法的な責任を超えた不当な要求行為
 - C. 取引に関して、脅迫的な言動をし、又は暴力を用いる行為
 - D. 風説を流布し、偽計を用い又は威力を用いて当行の信用を毀損し、又は当行の業務を妨害する行為
 - E. その他前各号に準ずる行為
 - (6) 積金者が、中途解約扱いとなった場合には、特典の対象外となります。

11. 届出事項変更等

- (1) 印章を失ったとき、または、印章、名称、住所、署名その他の届出事項に変更があったときは、直ちに書面によって取引店に届け出てください。この届出の前に生じた損害については、当行は責任をおいしません。
- (2) 印章を失った場合のこの積金の元利息の支払いは、当行所定の手続をした後に行います。この場合、相当の期間をおき、また、保証人を求めることがあります。
- (3) 積金口座の開設等の際には、当行は、法令で定める本人確認等の確認を行います。この際に行う確認事項に変更があったときは、直ちに当行所定の方法によって届出てください。

12. 成年後見人等の届出

- (1) 家庭裁判所の審判により、補助・保佐・後見が開始された場合は、直ちに書面によって成年後見人等の氏名その他必要な事項を取引店に届けてください。
- (2) 家庭裁判所の審判により、任意後見人監督人の選任がなされた場合には、直ちに書面によって任意後見人の氏名その他必要な事項を取引店に届けてください。
- (3) すでに補助・保佐・後見開始の審判を受けている場合、または任意後見人監督人の選任がなされている場合にも、前2項と同様に、直ちに書面によって取引店に届け出てください。
- (4) 前3項の届出事項に取消または変更等が生じた場合にも同様に、直ちに書面によって取引店に届け出てください。
- (5) 前4項の届出の前に生じた損害については、当行は責任を負いません。

13. 印鑑照合

払戻請求書、諸届その他書類に使用された印影(または署名)を届出の印鑑(または署名)と相当の注意をもって照合し、相違ないものと認めて取扱いましたらうえは、それらの書類につき偽造、変造その他の事故があってもそのために生じた損害については、当行は責任を負いません。なお、窓口にて署名の照合を行う場合は、PIN-PADに暗証番号の入力を行ってください。

14. 譲渡、買入れの禁止

- (1) この積金、積金契約上の地位その他この取引にかかわるいっさいの権利は、譲渡、買入れその他第三者の権利を設定すること、または第三者に利用させることはできません。
- (2) 当行がやむを得ないものと認めて買入れを承諾する場合は、当行所定の書式により行います。

15. 通知等

届出のあった氏名、住所にあてて当行が通知または送付書類を送付した場合には、延着しまたは到達しなかったときでも通常到達すべき時に到達したものとみなします。

16. 保険事故発生時における預金者からの相殺

- (1) この積金は、当行に預金保険法の定める保険事故が生じた場合には、本条各項の定めにより相殺することができます。なお、この積金は、積金者の当行に対する債務を担保するため、もしくは第三者の当行に対する債務で預金者が保証人となっているものを担保するために質権等の担保権が設定されている場合にも同様の取扱いとします。
- (2) 相殺する場合の手続については、次によるものとします。
 - ① 相殺通知は書面によるものとし、複数の借入金等の債務がある場合には充当の順序方法を指定のうえ、届出の印章(または署名)を押印(または署名)して直ちに提出してください。なお、窓口にて署名の照合を行う場合は、PIN-PADに暗証番号の入力を行ってください。
 - ただし、この積金で担保される債務がある場合には、当該債務または当該債務が第三者の当行に対する債務である場合には預金者の保証債務から相殺されるものとします。
 - ② 前号の充当の指定のない場合には、当行の指定する順序方法により充当いたします。
 - ③ 第1号による指定により、債権保全上支障が生じるおそれがある場合には、当行は延滞なく異議を述べ、担保・保証の状況等を考慮して、順序方法を指定することができるものとします。
 - (3) 相殺する場合の借入金等の債務の利息、割引料、遅延損害金等の計算については、その期間を相殺通知が当行に到達した日までとして、利率、料率は当行の定めによるものとします。また、借入金等を期限前弁済することにより発生する損害金等の取扱については当行の定めによるものとします。
 - (4) 相殺する場合の外国為替相場については当行の計算実行時の相場を適用するものとします。
 - (5) 相殺する場合において借入金の期限前弁済等の手続について別の定めがあるときには、その定めによるものとします。ただし、借入金の期日前弁済等について当行の承諾を要する等の制限がある場合においても相殺することができるものとします。

17. 反社会的勢力との取引拒絶

この積金口座は積金者が第9条(5)①A乃至F及び②A乃至Eのいずれにも該当しない場合に利用することができ、第9条(5)①A乃至F及び②A乃至Eの一にでも該当する場合には当行はこの積金口座の開設をお断りするものとします。

18. 規定の改定

本規定は、法令の変更、監督官庁の指示その他の必要性が生じた場合には、改訂されることがあります。本規定を改定する場合は、当行本支店の窓口または当行ホームページにおいて、改訂内容を記載して告知します。

以上

